

## 2 ソ連の参戦

新 京 8月9日後4時25分発  
本 省 8月9日後4時50分着

1063

昭和20年8月9日

在満州国山田大使より  
東郷外務大臣宛(電報)

K第三六號  
往電 K第三五號ニ關シ

### 満ソ国境において戦闘行為開始について

新 京 8月9日前6時00分発

本 省 8月9日前10時30分着

第四四四號(緊急)

一、九日未明東部蘇滿國境ニ於テ戦闘行為開始セラレタル旨

軍公報ニテ發表セラレタリ(午前四時三十分)

二、満洲國政府ハ九日午前四時防衛令全條全満亘リ發令ス

ルコトトナレリ

大東亞大臣ニ轉報アリタシ

~~~~~

1064  
昭和20年8月9日  
(在満州国山田大使より  
東郷外務大臣宛(電報))

### 満州国官憲によるソ連側官民に対する措置及び今後の方針について

ト(イ)構内監視下ニテモ差支ナキニ付運動ヲ許ス  
コト(B)在留民ニ對シテハ(イ)病人及婦女ヲ出來得ル限り一般抑留ヨ  
リ引離スコト(ロ)住居及食料ハ出來得ル限り寛大ニスル様

軍ヲ通シ現地ニ指達方取計ヒ置キタリ

關東州廳側ハ當館指示ヲ待チ措置ヲ開始セル苦ナルカ未

タ詳細ノ報告ナシ(八月九日正午)

(別電)

本省 8月9日後11時08分発

第四八〇號(緊急、極祕)

方針

差當リ保護監視ヲ強化スルモノ行過キタル措置ハ之ヲ差控ヘ  
在「ソ」帝國公館等ニ對スル「ソ」側ノ出方等ヲ注視シツ  
ツ左ノ措置ヲ執ルモノトス

一、外交官及領事館

(1) 差當リ現在ノ居所ニ居住セシメ外部トノ接觸ヲ遮斷シ  
保護監視ノ措置ヲ強化ス但現在大使館外ニ居住シ居ル  
館員ニ對シテハ大使館内へ移轉ヲ行ハシムルコトアル  
ベシ

外出ハ從來ノ取締ヲ強化シ配給品ノ受領醫療等必要止  
ムヲ得スト認メタル場合ニ限り許可ス外出及旅行ヲ許

可セル際ハ護衛ヲ附ス

(2) 郵便ノ發受其他ノ通信ハ原則トシテ停止ス

電信ノ發受ハ暗號平文共原則トシテ禁止ス但外務省ニ  
於テ必要ト認メタル場合ニ限り之ヲ許可ス

### 三 対ソ交渉とソ連の参戦

1065

昭和20年8月9日

東郷外務大臣より  
在満州国山田大使宛(電報)

ソ連の参戦に伴う在本邦ソ連人及び同財産取扱いに関する関係各省係官会議における決定について

別電

昭和二十年八月九日発東郷外務大臣より在満

州国山田大使宛第四八〇号

在本邦ソ連人及び同財産の取扱いについて

本省 8月9日後10時発

第四七九號(緊急、極祕)

「ソ」聯ノ對日宣戰ニ伴ヒ在本邦「ソ」聯外交官、領事官、  
一般在留民及其ノ財產ニ對スル取扱振ニ關シ九日關係各省  
係官ノ會議ニ於テ大要別電第四八〇號ノ通り打合ヲ了シタ  
ルニ付大連及京城ニ於テモ右ヲ御參照ノ上適當御措置相成  
度又在満大使ヨリ參考トシテ滿側へ右御連絡置相成度シ

(3) 短波無電發受信機ノ使用ハ禁止スベキモ禁止實施ノ時

期方法等ニ關シテハ追テ外務省ヨリ關係各省ニ協議ス

(4) 武器寫眞機等ハ差當リ領置セザルコトトス

(5) 食糧配給ハ從來通リトス

(6) 空襲激化ノ際ニ於テノ避難ニ當リテハ内務省憲兵隊ニ

於テ先方ノ意向ヲ尊重シツツ善處ス

二、一般在留民

(1) 差當リ居住ハ現在通リトシ其ノ居所ニ於テ保護監視ノ

措置ヲ強化ス(此ノ點ハ大連等ニ於テハ事情ヲ異ニス  
ルヤモ知レズ)

(2) 郵便電信ノ發受ハ原則トシテ停止ス

三、財產

(1) 敵產管理法ニ基ク敵國トシテ指定スルノ時期ハ追テ定

ム

(2) 大口ノ預金ノ引出ヲ制限ス

~~~~~

昭和20年8月9日 在スウェーデン岡本公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

ソ連の対日参戦に関する情報

1066

ストックホルム 8月9日後6時35分発

本 省 8月11日後5時35分着

第五一七號

蘇聯ノ對日參戰ニ關スル當地情報ヲ綜合スルニ左ノ通(九  
日)

蘇聯ハ極東ニ於ケル發言權ヲ確保スル爲ニハ對日戰線參加

ノ積極的役割ヲ果ス要アリトシ既ニ「テヘラン」「ヤルタ」

會談ノ際時機等細目ニ付テハ確約ヲ與ヘサリシモ原則的ニ  
參戰ヲ約セリトモ傳ヘラレ居ル處其ノ時機如何ハ素ヨリ日

本ノ戰力ニ關スル見透ニ懸ル所大ナリシ次第ニシテ中立條  
約廢棄通告ニ依リ先ツ參戰ノ形式上ノ障碍ヲ除去シ對獨戰  
終了後モ兵力資材ノ移動ニ相當ノ準備ヲ要シタルノミナラ

ス日本ノ戰力ニ付充分ナル見透シツカサリシヲ以テ「ポツ  
ダム」會談ニ臨ム迄未タ參戰ヲ決定シ居ラサリシモノト傳  
ヘラル

日本本土上陸作戰ノ可能性アルコト明カトナレル外支那大  
陸ト日本本土トノ聯絡困難トナリ又在滿洲日本軍ノ增強補  
充殆ト不可能トナレルニ鑑ミ太平洋戰爭ハ最早最後ノ段階  
ニ達シ蘇聯ハ大ナル犠牲ヲ要セスシテ對日參戰ニ依リ極東

### 三 対ソ交渉とソ連の参戦

ニ於テ地位ヲ強化シ得ヘシトノ見透シヲ爲スニ到リ「ポツダム」ニ於テ米英トノ間ニ取引ヲ爲シタル結果參戰ヲ爲シタルモノナリ

一方米英側ニ於テハ歐洲戰終了ト共ニ國內ニ速カニ戰爭終結ヲ希望スル聲高マリ居リ又硫黃島沖繩ニ於テ米軍ハ豫想外ニ大損害ヲ蒙リ本土作戰ハ極メテ高價ナルヘキヲ明カニシ而シテ何等ノ條件ヲ示ササル無條件降伏ノ政策ハ徒ラニ長引カス惧レアリ須ラク對日條件ヲ示シ日本ノ降伏ヲ早ムヘシトノ要求多クナリタルヲ以テ英米戰爭指導者ハ對日戰ノ急速ナル終熄ノ爲ニハ凡ユル手段ヲ盡スコトニ決シタルモノノ如シ

對日空襲強化シ「ポツダム」會談ト相前後シテ英米軍ノ威力ヲ示シ本土上陸作戰ノ充分ニ可能ナルコトヲ示スト共ニ七月二十六日對日最後通牒ヲ送り(蘇聯ハ參加セサリシモ之ヲ承認セルモノノ如シ)帝國カ之ヲ拒絕スルヤ八月六日最初ノ原子爆彈ヲ投下シ更ニ八日蘇聯ノ參戰ヲ見ルニ至リタルカ之等ハ何レモ上陸作戰ヲ行ハシテ日本ヲ降伏ニ導カムトスル敵米英ノ努力ナルハ明瞭ナリ「トルーマン」ハ對日戰ヲ急速終結ニ導キ人的損耗ヲ最少限ニ止ムルト共ニ

1067

昭和二十年八月十日 東郷外務大臣 在本邦マリクソ連邦大使 会談

マリクより対日宣戰文の手文について

付記一 昭和二十年八月八日付

ソ連の対日宣戰文和訳文

二 昭和二十年八月十日、重臣會議説明用資料

「對蘇外交交渉經過概要」

三 昭和二十年八月九日付、政務局第三課作成

「モスクワ」トノ電報連絡ノ件

四 昭和二十一年六月十五日付佐藤大使より吉田

外務大臣宛報告

ソ連の対日開戦通告の経緯について

東郷外務大臣「マリク」大使會談錄

(八月十日午前十一時十五分十二時四十分)

一日モ早ク歐洲ノ戰後復興策ニ着手スル必要アリ其ノ爲ニハ蘇聯ニ相當ノ代價ヲ拂フトモ之ヲ參戰セシムヘシトノ立場ヨリ「ポツダム」ニ於テ歐洲問題ニ付キ最大限度ノ讓歩ヲ行フト共ニ蘇聯ノ對日參戰ヲ督促セルモノノ如シ

陪席者

高杉調査官(通譯)

「バラサーノフ」二等書記官

ルルコトヲ得セシムル唯一ノ方法ナリト「ソ」聯政府ハ

思考スルモノナリ

「マリク」政府ノ訓令ニ依リ「ソ」聯政府ノ日本政府ニ對スル左ノ宣言ヲ傳達スペシ

「ヒトラー」獨逸ノ壊滅及降伏後ニ於テハ日本ノミカ引續キ戰爭ヲ繼續シツツアル唯一ノ大國トナレリ日本兵力

ノ無條件降伏ニ關スル本年七月二十六日附ノ米利加合衆國、英國及支那三國ノ要求ハ日本ニヨリ拒否セラレタリ、

之ガ爲極東戰爭ニ關シ日本政府ヨリ「ソ」聯邦ニ對シナ

サレタル調停方ノ提案ハ總テノ根據ヲ喪失スルモノナリ

日本ガ降伏ヲ拒否セルニ鑑ミ聯合國ハ戰爭終結ノ時期ヲ短縮シ、犠牲ノ數ヲ減縮シ且全世界ニ於ケル速カナル平和ノ確立ニ貢獻スル爲「ソ」聯政府ニ對シ日本侵略者トノ戰爭ニ參加スル様申出デタリ

總テノ同盟ノ義務ニ忠實ナル「ソ」聯政府ハ聯合國ノ提

案ヲ受理シ本年七月二十六日附ノ聯合國宣言ニ加入セリ

斯ノ如キ「ソ」聯政府ノ政策ハ平和ノ到來ヲ早カラシメ今後ノ犠牲及苦難ヨリ諸國民ヲ解放セシメ且獨逸ガ無條

件降伏拒否後體驗セル如キ危險ト破壞ヨリ日本國民ヲ免

大臣、只今ノ宣言ヲ了承セリ

右ノ次第ナルヲ以テ「ソ」聯政府ハ明日即チ八月九日ヨリ「ソ」聯邦ハ日本ト戰爭狀態ニアルモノ思考スルコト

ヲ宣言ス

日本側ニ於テハ「ソ」聯邦トノ間ニ長キ期間ニ瓦リ友好ナル關係ヲ設定スル目的ヲ以テ進ミ來リ居リ最近ニ於テモ五月初ヨリ廣田元首相ヲシテ貴大使トノ間ニ話合ヲ進メシメタルガ右ニ對シ未ダ「ソ」側ヨリ回答ニ接シ居ラズ、尙六月中旬人類ヲ戰爭ノ慘禍ヨリ救フ爲成ル可ク速力ニ戰爭ヲ終結セシメントノ 陛下ノ大御心ニヨリ右ヲ「ソ」側ニ傳達シ日「ソ」間ノ關係強化及戰爭終結ニ關スル話合ヲ爲ス爲特使ノ派遣方ヲ申入レタルガ右ニ對シテモ未ダ回答ナカリシ次第ナリ、即チ我方ニ於テハ戰爭終結ニ關スル「ソ」聯政府ノ斡旋ノ回答ヲ待チ七月二十六日ノ英、米、重慶三國ノ共同宣言ニ對スル態度ノ決定ニ資シ度シト考ヘ居タル次第ナリ

貴方ニ於テハ三國ノ共同宣言ハ拒否セラレタリトナサレ

### 三 対ソ交渉とソ連の参戦

居ル處右ガ如何ナル「ソース」ニヨリテ知リ得ラレタルモノナリヤ承知セザルガ前述ノ事實ニ鑑ミ日本ニ何等ノ返事ヲスルコトナク突如トシテ國交ヲ斷タレ戰爭ニ入ラルハ不可解ノコトナリ、東洋ニ於ケル將來ノ事態ヨリモ甚タ遺憾ナリト言ハザルヲ得ズ

「マリク」大臣ノ述ベラレタル總テノコトニ對スル回答ハ只今述ベタル宣言ノ中ニ含マレ居レリ右以外ニ何等附言スペキコトナシ

大臣、貴方ノ述ベラレタルコトハ當方ニ於テハ不可解ナリト申上ゲタル次第ニシテ今以テ不可解且遺憾トスルモノナリ

右ハ艤テ世界ノ歴史ガ之ヲ裁判スベク今本問題ニ付話スコトハ差控ヘ度シ

只一つ申上ゲ度キコトアリ

「マリク」歴史ハ公平ナル審判者ナリ、歴史的必要ハ不可避ナリ

大臣、歴史ハ長キ間ニ作り上ゲラルモノナリ、何レニスルモ今之ニ付話スコトヲ欲セザルハ既ニ申述ベタル通りナリ

日本政府ニ於テハ人類ヲ戰爭ノ慘禍ヨリ免レシメ成ル可ク速カニ平和ヲ招來センコトヲ御祈念シ給フ 天皇陛下ノ大御心ニ從ヒ 「ソ」聯政府ニ對シ斡旋ヲ依頼セルモ不幸ニシテ平和ヲ招來セントセル帝國政府ノ努力ガ實ヲ結ブニ至ラザリシハ御承知ノ通リナリ、然シ帝國政府ハ天皇陛下ノ平和ニ對スル御祈念ニ基キ一般平和ヲ回復シ戰爭ノ慘禍ヲ速カニ除去センコトヲ欲シ左ノ通り決定セリ

帝國政府ハ去月二十六日米英支三國首脳者ニ依リ決定セラレ其後「ソ」聯政府ノ參加セル對本邦共同宣言ニ舉ゲラレタル條件中ニハ 天皇ノ統治者トシテノ大權ヲ變更セントスル要求ヲ包含シ居ラザルコトノ了解ノ下ニ右宣言ヲ受諾ス

從ヒテ帝國政府ハ「ソ」聯政府ガ右ノ了解ニ誤ナキ旨速カニ正確ナル意思ヲ表明セラレンコトヲ希望ス

右ニ關シテハ既ニ瑞典國ヲ通ジ通告ノ手筈ヲ執レリ 日本ニ於ケル 天皇ノ御地位ガ日本國民ト不可分ノモノナルコト等日本皇族ノ地位ニ付キテハ克ク御了解ノコトト思考ス、依テ我方ノ此ノ了解ハ絶対ノモノナリ、從ヒ

テ聯合國政府ニ於テモ右ヲ了解セラレ右ニ同意セラル  
コトニ困難ナカルベキヲ信ズルモノナリ、世界ノ平和ノ  
速カニ克復セラルル見地ヨリ此ノ申入ニアル通り速カニ  
明確ナル意思ヲ表示セラレ戰爭ヲ終結スルコト望マシ  
貴方ニ於テ御異存ナクバ本國政府ニ電報セラレンコトヲ  
希望ス、貴方ニ於テ御異存ナケレバノコトナリ

「マリク」右申入ヲ受理スル權限ナシ、然レドモ自分ノ個  
人的責任ニ於テ而モ右ヲ本國政府ニ傳達スルコトノ爲ニ  
何等ノ困難ナキコトヲ條件トシテ右傳達ニ同意ス

大臣、瑞典經由ニ比シ當地ニ於テ貴方ヲ經由スル方迅速ナ  
ルベク又貴大使ノ方ガ當地ノ事情ニヨリ一層明ルキコト  
ニモアリ貴方ニ御異存ナクバ御願シ度シト申上ゲタル譯  
ナリ、御異存ナントノコトナルニ付傳達方取計アリ度シ、  
茲ニ英文ニテ申入文ヲ作成シ置キタルニ付差上グベシ  
附言スペキガ英、米、重慶、「ソ」聯各政府ニ傳達方下  
命濟ナリ

「マリク」念ノ爲明カニ致シ置キタキガ日本側ノ提案文中  
ニハ平和ノ招來ニ對スル日本政府ノ努力ハ實ヲ結バザリ  
シ旨述ベアリ、又貴大臣ハ只今ノ御話中ニモ「ソ」聯ハ

如何ナル根據ニ基キ日本ガ三國共同宣言ヲ拒否セリトナ  
シ居ルヤ承知セズト述ベラレタルガ我方宣言中ニモ日本  
ガ降伏ヲ拒否セルコトニ鑑ミト述ベアリ、又「アトミク」  
爆彈使用ニ關シ米大統領「トルーマン」ノナシタル聲明  
ノ中ニモ日本ハ拒否セリト述ベ居レリ  
貴大臣ノ御申出ニ從ヒ政府ニ傳達スベシ

大臣、先程モ觸レタル通り日本ト「ソ」聯トノ間ニハ友好  
關係存續シ夫々大使ヲ相手國內ニ駐在セシメアリ戰爭終  
結ニ關スル交渉モ繼續中ナリシ次第ナレバ「ソ」聯ガ第  
三國トスノ如キ重大ナル決定ヲナスニ當リテハ前以テ日  
本政府ニ何等カノ話合アリテ然ル可キモノナリシト思考  
ス、右モ歷史上ノ問題ノ一部ニ關スルモノナリ、若シ  
「ソ」聯政府ニ於テ日本ノ申出ニ從ヒ斡旋ヲ進メ之ニ依  
リ大ナル戰爭ヲ終結セシメ得バ如何ニ「ソ」聯ハ世界歷  
史ノ前ニ又現在ノ國際政局ノ前ニ愉快且有利ナル地位ヲ  
占メラレタルモノナラン、然ルニ今度執ラレタル「ソ」  
聯ノ態度ハ遺憾ナリ、右ノ意味ニテ申述ベタル次第ニシ  
テ之以上ハ申上ゲズ

「マリク」歴史ハ如何ニ「ソ」聯ガ平和ノ強化ニ貢獻シ居

ルモノナルカヲ立證スベシ

日本ト戰爭狀態ニアルヘキ旨ヲ宣言ス  
一九四五年八月八日

(付記一)

〔假  
譯〕

「ヒトラー」獨逸ノ敗北及降伏後ニ於テハ日本ノミカ戰爭

ヲ繼續スル唯一ノ大國タルニ至レリ、三國即チ米合衆國、

英國及支那ノ日本軍隊ノ無條件降伏ニ關スル本年七月二十

六日ノ要求ハ日本ニ依リ拒否セラレタリ、因テ極東戰爭ニ

關スル日本政府ノ蘇聯邦ニ對スル調停方ノ提案ハ全ク其ノ

基礎ヲ失ヒタリ、日本ノ降伏拒否ニ鑑ミ聯合國ハ蘇聯邦政

府ニ對シ同政府カ日本ノ侵略ニ對スル戰爭ニ參加シ、以テ

戰爭ノ終了ヲ促進シ犠牲者ノ數ヲ減少シ、且急速ニ一般的

平和ノ恢復ニ資スヘク提案セリ、蘇聯邦政府ハ其ノ聯合國

ニ對スル義務ニ遵ヒ聯合國ノ右提案ヲ受諾シ、本年七月二

十六日ノ聯合國宣言ニ參加セリ、蘇聯邦政府ハ斯ル同政府

ノ政策カ平和ヲ促進シ、各國民ヲ此レ以上ノ犠牲ト苦難ヨ

リ救ヒ日本人ヲシテ獨逸カ其ノ無條件降伏拒否後嘗メタル

危險ト破壞ヲ回避セシメ得ル唯一ノ手段ナリト思考ス、以

上ノ見地ヨリ蘇聯邦政府ハ明日即チ八月九日ヨリ同政府ハ

(付記二)

對蘇外交交渉經過概要

蘇聯邦ハ歐洲ニ於ケル戰爭ノ終結ニ依リ極メテ都合ノ良イ

立場ニ立ツタノデアリマスガ、帝國トシテハ蘇聯邦ヲ敵ニ

廻サヌ様凡ユル機會ニ於テ各種ノ方法ニ依リマシテ努力ヲ

重ネテ參ツタノデアリマス。即チ蘇聯邦ハ本年四月五日帝

國ニ對シ日蘇中立條約不延長ノ意嚮ヲ通告シテ參リマシタ

ガ本年四月五日「モスコ」ニ於テ佐藤大使ニ對シ「モロ

トフ」ヨリ中立維持ニ關シテハ何等態度ニ變化ナシトノ言

質ヲ與ヘテ居ツタノデアリマス。勿論明日ノコトハ何人モ

知ルコトノ出來ヌ國際情勢ノコトデアリマスルカラ此ノ言

質ノミニ安ンズルコトハ樂觀ニ過ギルノデアリマシテ、帝

國トシテハ蘇聯邦ノ中立的態度ヲ益々固メテ行クコトガ必

要デアリマシタコト勿論デアリマシテ之ト同時ニ蘇聯邦ヲ

成ルベク我方ニ都合良ク引付ケルコトガ望マシカツタ次第

デアリマス。

仍テ帝國政府ニ於テハ日蘇間ニ友好親善關係ヲ鞏固ナラシ  
ムルハ勿論、兩國共同ニテ東亞ノ靜謐保持ニ任ズルノ協定  
ヲ遂ゲルヲ適當ト認ムルト共ニ蘇聯邦ノ戰爭終結ヘノ利用  
限度打診ヲ試ムルノ緊要ナルヲ感ジ以後元總理廣田弘毅氏  
ニ委嘱在京「マリク」蘇聯邦大使ト會談ノ上蘇聯邦側ノ  
意嚮ヲ探グルト共ニ我方ノ意圖ニ蘇聯邦ヲ誘導スル方途ヲ  
發見セントシ六月三日兩者ハ第一回ノ會談ヲ遂ゲ日蘇關係  
ニ關スル根本問題ニ付意見ノ交換ヲ行ヒ次デ六月四日ニハ  
第二回會談ヲ遂ゲ、六月二十四日第三回目ノ會見トナリ問  
題ハ漸次具体的トナリ之ガ解決ノ方式研究ト云フ段取ニ進  
ミマシタノデ六月二十九日第四回ノ會談ニ於テ廣田弘毅氏  
ヨリ政府ノ依頼ニ依ル旨ヲ明カニシ日蘇兩國今後ノ關係ヲ  
律スル取極メノ骨子トシテ

日蘇間ニ鞏固ナル永續的親善關係ヲ樹立シ東亞ノ恒久的  
平和維持ニ協力スルコトトシ之ガ爲日蘇兩國間ニ東亞ニ  
於ケル不侵略關係ヲ設定スヘキ協定ヲ締結スルモノナル  
旨

ヲツノ書キ物トシ且ツ將來ノ兩國關係、滿洲國又ハ其他  
ニ關スル問題ニ對スル我方ノ意嚮トシテ

- (1) 滿洲國ノ中立化(大東亞戰爭終了後我方ハ撤兵シ日蘇  
兩國ニ於テ滿洲國ノ主權及領土ノ尊重竝ニ内政不干渉  
ヲ約ス)ヲ約シ差支ナキコト
- (2) 漁業權ヲ石油ノ供給アレバ解消スルコト差支ナキコト
- (3) 其他蘇聯邦ノ希望スル諸條件ニ就テモ論議スルコト差  
支ナキコト

ヲ他ノ書キ物トシテ之等ヲ「マリク」大使ニ手交シ廣田氏  
ヨリ説明ヲ加ヘテ本國政府へ取次ガシメタノデアリマス。  
右ト並行シテ在蘇聯邦佐藤大使ニ對シ右經緯ヲ電報シ佐藤  
大使ヲシテ蘇聯邦側ノ回答ヲ促進スル様訓令致シタノデア  
リマスガ佐藤大使ハ七月十日ニ「ロゾフスキイ」次長ト面  
會シ又七月十一日ニハ「モロトフ」外務人民委員ト面談シ  
テ極力交渉ノ進捗ヲ促シタノデアリマス。當時七月初旬ニ  
ハ重慶政府ヨリ宋子文一行ガ「モスコ一」ニ行ツテ居リ蘇  
支間ノ諸懸案ノ解決方ニ關シ折衝中デアリマシタシ又一方  
七月十四日ニハ「スター・リン」「モロトフ」ハ柏林ニ於ケ  
ル三國會談ニ向ケ出發スルト云ツタ風ナ狀況デアリマシテ  
我方ハ容易ナラザル情勢ノ裡ニ交渉ヲ進メタノデアリマシ  
テ「モスコ一」ニ於ケル佐藤大使ト蘇聯邦主腦部トノ折衝

モ其ノ進捗ニ相當ノ困難ヲ感ジタ部面ハアツタノデアリマスガ我方ノ意嚮ハ之ヲ充分先方へ反映セシメ得タト考ヘラレルノデアリマス。

素ヨリ蘇聯邦ハ米英ト同盟關係ニ在ル次第デアリマスカラ我方トノ提携ガ蘇聯邦ノ對米英關係ニ重大ナル障碍ヲ與フル場合ニ於テハ自然躊躇セザルヲ得ヌハ寧ロ當然ト申サネバナリマセン。此ノ邊ハ我方ノ特ニ苦心シタ所デアリマス。

尙此際特ニ申上グベキハ客年來戰局ガ次第二惡化シ沖繩方面ノ戰爭モ當初ノ期待ニ反シ漸次不利トナリタルニ加へ空襲ノ激化、運輸力ノ遞減等ニ依リ生産急激ニ減少シ食糧難等ノ事情モアリ戰爭ノ推移甚ダ困難トナレル次第ニテ右ノ事實ハ六月六日最高戰爭指導會議ニ於テモ認メラレタノデアリマスガ六月二十二日最高戰爭指導會議構成員ヲ御召シニ相成リ内外ノ情勢緊迫セル爲爾後ノ戰爭指導上ニ特段ニ留意スル様御諭シヲ賜ツタ次第デアリマス。

我方ト致シマシテハ戰爭ヲ終結スル場合無條件降伏ニ非ザル和平ニ入ラント努ムルコトガ是非必要デアツタノデアリマシテ蘇聯邦トノ交渉モ此ノ意味合ヲ含ムモノデアツタノ

デアリマス。而シテ帝國トシテハ米英蘇三國會談ガ「ボツダム」ニ開催セラル以前ニ蘇側ニ對シ 天皇陛下ノ大御心ヲ傳ヘテ置クコトヲ適當ト認メ七月十二日佐藤大使ニ對シ新タニ訓令ヲ發シタノデアリマス。即チ

「天皇陛下ニ於カセラレテハ今次戰爭ガ交戰各國ヲ通じ國民ノ慘禍ト犠牲ヲ日々増大セシメツツアルヲ御心痛アラセラレ戰爭ガ速カニ終結セラレンコトヲ念願セラレ居ル次第ナルガ大東亞戰爭ニ於テ米英ガ無條件降伏ヲ固執スル限り帝國ト祖國ノ名譽ト生存ノ爲一切ヲ擧ケ戰ヒ抜ク外ナク之ガ爲彼我交戰國民ノ流血ヲ大ナラシムルハ誠ニ不本意ニシテ人類ノ幸福ノ爲成ルベク速ニ平和ノ克服セラレンコトヲ希望セラル」

ル旨ヲ「モロトフ」ニ説明シ且ツ右大御心ハ民草ニ對スル御仁慈ノミナラズ一般人類ノ福祉ニ對スル御思召ニ出ツル次第ニシテ右御趣旨ヲ以テ近衛文麿公爵ヲ「モスコー」ニ特派使節トシテ差遣セラル御内意ノ次第ヲ「モロトフ」ニ申入レ特派使節一行ノ入國方ニ付蘇聯邦側ノ同意ヲ取付クベキ旨ノ訓令ガ其レデアリマス。東京ニ於テモ同様ノ趣旨ヲ「マリク」大使ヘ申入レテ置イタノデアリマス。

右工作ハ曩ニ述べマシタ廣田元總理ト「マリク」大使トノ會談ト唇齒輔車ノ關係ニ立チ要スルニ蘇聯邦ヲシテ對日參戰ヲナサシメザルノミニテハ足ラズ進デ之ヲ我ニ有利ニ誘導センガ爲先方ノ要望ハ大幅ニ之ヲ容認スルノ決意ノ下ニ促進シテ參ツタ次第デアリマシテ日蘇親善強化交渉ハ戰爭終結ニ對スル蘇聯邦ノ誠意アル斡旋ニ誘導スルノ基盤トシテ將又對米英交渉ノ地歩ヲ固ムル爲ニモ必要ナリト認メテ凡ユル努力ヲ拂ツタノデアリマス。然ルニ蘇聯邦側ハ七月十八日ニ至リ前述ノ我方申出カ具体的提議ヲ包含セザル點ヲ指摘スル一方近衛公爵特派ノ件ニ關シテハ其ノ使命不明瞭ナル爲確タル回答ヲナスコト困難ナル旨ヲ申シテ參ツタノデアリマス。

「ヒトラー」獨逸ノ敗北及降伏後ニ於テハ日本ノミカ戰爭ヲ繼續スル唯一ノ大國タルニ至レリ、三國即チ米合衆國、英國及支那ノ日本軍隊ノ無條件降伏ニ關スル本年七月二十六日ノ要求ハ日本ニ依リ拒否セラレタリ、因テ極東戰爭ニ關スル日本政府ノ蘇聯邦ニ對スル調停方ノ提案ハ全ク其ノ基礎ヲ失ヒタリ、日本ノ降伏拒否ニ鑑ミ聯合國ハ蘇聯邦政府ニ對シ同政府カ日本ノ侵略ニ對スル戰爭ニ參加シ、以テ戰爭ノ終了ヲ促進シ犠牲者ノ數ヲ減少シ、且急速ニ一般的平和ノ恢復ニ資スヘク提案セリ、蘇聯邦政府ハ其ノ聯合國ニ對スル義務ニ遵ヒ聯合國ノ右提案ヲ受諾シ、本年七月二十六日ノ聯合國宣言ニ參加セリ、蘇聯邦政府ハ斯ル同政府ノ政策カ平和ヲ促進シ、各國民ヲ此レ以上ノ犠牲ト苦難ヨリ救ヒ日本人ヲシテ獨逸カ其ノ無條件降伏拒否後嘗メタル危險ト破壞ヲ回避セシメ得ル唯一ノ手段ナリト思考ス、以上ノ見地ヨリ蘇聯邦政府ハ明日即チ八月九日ヨリ同政府ハ

スコ一」ニ歸還シタ模様デアリマシタガ佐藤大使ノ會見申ス。

此ノ間「モロトフ」ハ八月五日柏林三國會談ヲ終了シ「モロトフ」ハ往訪ノ佐藤大使ニ對日參戰ヲナサシメザルノミニテハ足ラズ進デ之ヲ我ニ有利ニ誘導センガ爲先方ノ要望ハ大幅ニ之ヲ容認スルノ決意ノ下ニ促進シテ參ツタ次第デアリマシテ日蘇親善強化交渉ハ戰爭終結ニ對スル蘇聯邦ノ誠意アル斡旋ニ誘導スルノ基盤トシテ將又對米英交渉ノ地歩ヲ固ムル爲ニモ必要ナリト認メテ凡ユル努力ヲ拂ツタノデアリマス。然ルニ蘇聯邦側ハ七月十八日ニ至リ前述ノ我方申出カ具体的提議ヲ包含セザル點ヲ指摘スル一方近衛公爵特派ノ件ニ關シテハ其ノ使命不明瞭ナル爲確タル回答ヲナスコト困難ナル旨ヲ申シテ參ツタノデアリマス。

右ニ對シテハ佐藤大使ヲシテ更ニ懇切ニ説明ヲ加ヘシメ極力其ノ理解ヲ深ムルト共ニ誠意アル回答ヲ督促中デアツタノデアリマス。佐藤大使ヘハ先方ノ指示ニ依リ柏林等ニモ赴キ「モロトフ」ト會談スペキ旨ヲ訓令致シタノデアリマス。

此ノ間「モロトフ」ハ八月五日柏林三國會談ヲ終了シ「モロトフ」ハ往訪ノ佐藤大使ニ對日參戰ヲナサシメザルノミニテハ足ラズ進デ之ヲ我ニ有利ニ誘導センガ爲先方ノ要望ハ大幅ニ之ヲ容認スルノ決意ノ下ニ促進シテ參ツタ次第デアリマシテ日蘇親善強化交渉ハ戰爭終結ニ對スル蘇聯邦ノ誠意アル斡旋ニ誘導スルノ基盤トシテ將又對米英交渉ノ地歩ヲ固ムル爲ニモ必要ナリト認メテ凡ユル努力ヲ拂ツタノデアリマス。然ルニ蘇聯邦側ハ七月十八日ニ至リ前述ノ我方申出カ具体的提議ヲ包含セザル點ヲ指摘スル一方近衛公爵特派ノ件ニ關シテハ其ノ使命不明瞭ナル爲確タル回答ヲナスコト困難ナル旨ヲ申シテ參ツタノデアリマス。

右ニ對シテハ佐藤大使ヲシテ更ニ懇切ニ説明ヲ加ヘシメ極力其ノ理解ヲ深ムルト共ニ誠意アル回答ヲ督促中デアツタノデアリマス。佐藤大使ヘハ先方ノ指示ニ依リ柏林等ニモ赴キ「モロトフ」ト會談スペキ旨ヲ訓令致シタノデアリマス。

此ノ間「モロトフ」ハ八月五日柏林三國會談ヲ終了シ「モロトフ」ハ往訪ノ佐藤大使ニ對日參戰ヲナサシメザルノミニテハ足ラズ進デ之ヲ我ニ有利ニ誘導センガ爲先方ノ要望ハ大幅ニ之ヲ容認スルノ決意ノ下ニ促進シテ參ツタ次第デアリマシテ日蘇親善強化交渉ハ戰爭終結ニ對スル蘇聯邦ノ誠意アル斡旋ニ誘導スルノ基盤トシテ將又對米英交渉ノ地歩ヲ固ムル爲ニモ必要ナリト認メテ凡ユル努力ヲ拂ツタノデアリマス。然ルニ蘇聯邦側ハ七月十八日ニ至リ前述ノ我方申出カ具体的提議ヲ包含セザル點ヲ指摘スル一方近衛公爵特派ノ件ニ關シテハ其ノ使命不明瞭ナル爲確タル回答ヲナスコト困難ナル旨ヲ申シテ參ツタノデアリマス。

日本ト戰爭狀態ニアルヘキ旨ヲ宣言ス

右宣戰布告ノ通報ハ先づ「モスコ一」ヨリノ放送ニテ八月九日午前四時頃我方ノ知ル所トナツタノデアリマスガ同日未明ヨリ蘇聯邦軍ハ蘇滿東方國境ヨリ滿洲國內ヘ進撃ヲ開始スルト共ニ若干ノ滿洲國都市ニ爆撃ヲ加フルニ至リマンタ。

帝國ニ於テハ九日午前十時半ヨリ最高戰爭指導會議ヲ開イテ協議シ午后一時ヨリ夜半十一時過ギ迄臨時閣議開催セラ

レ此ノ間總理大臣ハ外務大臣ト共ニ宮中ニ參内シ總理ヨリ

情況ニ關スル内奏方行ハレタノデアリマス。次デ同日深更ヨリ十日午前二時半頃迄御前會議召集セラレ午前三時ヨリ四時過ギ迄臨時閣議ガ開カレタノデアリマス。其ノ結果左ノ如キ内容ノ對米、英、蘇、支提議ヲ爲スニ決シ十日早朝在瑞西加瀬公使ニ對シ右提議ヲ瑞西政府ニ對シ米、支兩國政府へ通達方要請スベキ旨電訓致シタノデアリマス。

帝國政府ニ於テハ常ニ世界平和ノ促進ヲ冀求シ給ヒ今次戰爭ノ繼續ニ依リ齎ラサルベキ慘禍ヨリ人類ヲ免ガレシ

メンガ爲速ナル戰鬪ノ終結ヲ祈念シ給フ

天皇陛下ノ大御心ニ從ヒ數週間前當時中立關係ニ在リタル「ソヴィエト」聯邦政府ニ對シ敵國トノ平和恢復ノ爲斡旋ヲ依頼セルガ不幸ニシテ右帝國政府ノ平和招來ニ對スル努力ハ結實ヲ見ス茲ニ於テ帝國政府ハ

天皇陛下ノ一般的平和克服ニ對スル御祈念ニ基キ戰爭ノ慘禍ヲ出來得ル限り速ニ終止セシメンコトヲ欲シ左ノ通り決定セリ

帝國政府ハ一九四五年七月二十六日「ポツダム」ニ於テ米、英、支三國政府首腦者ニ依リ發表セラレ爾後「ソ」聯政府ノ參加ヲ見タル共同宣言ニ擧ケラレタル條件ヲ右宣言ハ 天皇ノ國家統治ノ大權ヲ變更スルノ要求ヲ包含シ居ラザルコトノ了解ノ下ニ受諾ス

帝國政府ハ右了解ニシテ誤リナキヲ信ジ本件ニ關スル明確ナル意向ガ速カニ表示セラレンコトヲ切望ス

帝國政府ハ右了解ニシテ誤リナキヲ信ジ本件ニ關スル明確ナル意向ガ速カニ表示セラレンコトヲ切望ス 尚八月十日午前十一時過ギ在京「マリク」蘇聯邦大使ハ外務大臣ヲ來訪シ政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ蘇聯邦政府ノ對日宣戰布告ヲ傳達致シマシタノデ外務大臣ハ之ヲ承シ最近ノ日蘇間ノ交渉ニ於テ示サレタル

大御心ノ廣大サニ更

昭和二十一年六月十五日

蘇聯ヨリ引揚

特命全權大使 佐藤 尚武(印)

外務大臣 吉田 茂殿

「ソ」聯邦ノ對日開戰通告ノ經緯報告ノ件

一、昭和二十年八月五日「スターリン」議長及「モロトフ」

委員「ポツダム」會議ヨリ歸莫セル旨「ソ」紙ニ發表ア

リタル處予テ東鄉外務大臣ノ訓令ニ基キ本使ヨリ「ソ」

側ニ申入レ置キタル「ソ」側ニ依ル終戰斡旋ノ件ニ關シ

速カニ「ソ」側ノ回答ヲ求メントノ考慮ヨリ「モロトフ」

委員歸莫後直チニ會見シ度キ旨前廣ニ「ソ」側ニ申入濟

ナリシモ更ニ八月五日「モロトフ」委員歸來同日同人ニ

對シ至急會見シ度キ旨申入レタル處八月七日ニ至リ「モ

ロトフ」委員ヨリ八日午後八時會見スベキ旨申越シタル

カ其ノ後先方ヨリ右會見時間ヲ繰上げ午後五時ニ會見シ

度キ旨變更シ來リ本使ニ於テ之ヲ諾シタリ

二、八月八日午後五時本使油橋書記官帶同「モロトフ」委員

ヲ往訪セル處同委員ハ本使ヨリノ用件申出ヲ待タズ早速

「ソ」側ヨリ通告シ度キコトアリトテ用意セル露文ニ依

メテ同大使ノ注意ヲ喚起スルト共ニ帝國政府ノ曰蘇友好關係ノ存續ニ關スル終始一貫セル態度ニ言及シ右ニモ拘ラズ突如蘇聯邦側ヨリ今日ノ如キ措置ニ出デ來リタルヲ甚ダ遺憾トスル旨述べ且ツ帝國政府ノ提議ニ關シ説明ヲ加ヘ右提議ノ蘇聯邦政府ヘノ傳達方ヲ求メタノデアリマスガ「マリク」大使ハ之ガ傳達方ヲ約シテ引取ツタノデアリマス。

(付記三)

「モスクワ」トノ電報連絡ノ件 (九日午後六時)

「ソ」側ニテハ佐藤大使ニ對シ「モロトフ」ノ通告振リヲ東京ニ電報スル機會ヲ與フベキ旨述べ居ル模様(短波ニヨル)ナル處現在迄右電報ハ我方ニテ接到シ居ラズ尙中央電信局ヨリノ報告ニヨレバ「モスクワ」側ハ今朝六時十五分以後我方ノ呼出ニ對シ應答ナシ(ソレ迄ハ「ソ」側ノ官報ノミ送リ來レリ)而シテ現在先方カ應答シ得ザル程狀況不良トハ思ハレザル趣ナリ。御參考迄

(付記四)

號外

リ左記宣言ヲ讀ミ上ゲ之ヲ本使ニ手交セリ

『ヒトラー』獨逸ノ敗北及降伏後ニ於テハ日本ノミガ戰

争ヲ繼續スル唯一ノ大國タルニ至レリ三國即チ米合衆國、英國及支那ノ日本軍隊ノ無條件降伏ニ關スル本年七月二十六日ノ要求ハ日本ニ依リ拒否セラレタリ因テ極東戰爭ニ關スル日本政府ノ「ソ」聯ニ對スル調停方ノ提案ハ全ク其ノ基礎ヲ失ヒタリ日本ノ降伏拒否ニ鑑ミ聯合國ハ「ソ」聯政府ニ對シ同政府ガ日本ノ侵略ニ對スル戰爭ニ參加シ以テ戰爭ノ終了ヲ促進シ犠牲者ノ數ヲ減少シ且急速ニ一般的平和ノ恢復ニ資すべく提案セリ「ソ」聯政府ハ其ノ聯合國ニ對スル義務ニ遵ヒ聯合國ノ右提案ヲ受諾シ本年七月二十六日ノ聯合國宣言ニ參加セリ「ソ」聯政府ハ斯ル同政府ノ政策ガ平和ヲ促進シ各國民ヲ此レ以上ノ犠牲ト苦難ヨリ救ヒ日本人ヲシテ獨逸ガ其ノ無條件降伏拒否後嘗メタル危險ト破壊ヲ回避セシメ得ル唯一ノ手段ナリト思考ス以上ノ見地ヨリ「ソ」聯政府ハ明即チ八月九日ヨリ同政府ハ日本ト戰爭狀態ニアルベキ旨ヲ宣言ス』

「モロトフ」委員ハ右宣言ヲ讀ミ終ルト共ニ尙本宣言ハ東京ニ於テモ「マリク」大使ヨリ日本政府ニ傳達スベキ旨附言セリ

仍テ本使ハ右宣言ニ付「ソ」聯政府ノ執リタル決定ヲ遺憾トスルト共ニ日本國民ヲ犠牲ト苦難ヨリ救フト稱シテ日本ニ對シ開戰スル趣旨了解シ得ザル旨ヲ指摘シ更ニ事茲ニ至ツテ論議ヲ重ネントスルモノニアラザルモ右宣言ハ之ヲ日本政府ニ傳達スルニ先立チ其ノ趣旨ヲ闡明ナラシムル要アルニ依リ茲ニ質問スルモノナルコトヲ斷リタル上八月九日ヨリ日本ト戰爭狀態ニ入ルトハ八月八日ハ平和狀態ニシテ九日ヨリハ戰爭狀態ナリトスル謂ナルベキヤトノ趣旨ヲ以テ質問ヲ續ケタルニ對シ「モロトフ」委員ハ「ソ」聯政府ノ宣言ハ一部分ノミナラズ全体ヲ通ジテ其ノ趣旨ヲ了解アリ度シト述べ更ニ戰爭狀態ニ入ル時ニ關スル質問ニ付テハ御質問ノ通りナル旨答フル處アリタリ次デ本使ヨリ日本政府ニ對スル右宣言傳達ノ方法ニ付種々質問セルニ對シ「モロトフ」委員ハ右宣言及會議内容傳達ノ爲ノ東京向發電ニハ支障ナキコト及暗號使用モ差支ナキコト等ヲ答ヘタリ以上會談ヲ終ヘ袂別ニ際シ本使ハ開戰トナリタルハ衷心遺憾トスル處ナルモ過去

三年間ニ亘ル在任中ノ「ソ」聯政府ノ待遇ヲ謝ス旨ヲ述

ベタルニ對シ「モロトフ」委員モ亦本使ノ言葉ヲ謝シ且

ツ開戦ニ依ル國際法上ノ措置ハ「ソ」側ニ依リ執ラルベ

キモ本使ガ侮辱セラルルガ如キコトハアリ得ベカラザル

旨附言スル處アリタリ

三、右會見ニ於ケル「モロトフ」委員ノ言明ニ基キ八月八日

午後九時左記四通ノ電報案ヲ蘇側官憲ニ手交シ發電方依

賴シタルニ（大使館員ハ當時館外ニ外出方禁ゼラレ居タ

ルヲ以テ自ラ發電ニ赴クコトヲ得ザリキ）「ソ」側官憲

ハ直ニ發電スベキ旨約シタリ（本使等歸朝ノ上之等電報

ハ到着シ居ラザル次第ヲ發見セリ）

イ、「モロトフ」委員ヨリ開戦通告文ノ手交ヲ受ケタル

旨及速ニ利益代表國ヲ決定セラレ度キ旨ノ電報

ロ、通告文全文（別電）

ハ、松平書記官ヨリ武内政務三課長宛ニ館員一同無事ニ

シテ事務上ノ處理萬事終了ノ旨通報セル電報

ニ、野村電信官ヨリ大江電信課長宛ニ電信上ノ處分全部

終了ノ旨通報セル電報

（以上）

右報告ス

1068

昭和20年8月10日

在満州國山田大使より  
東鄉外務大臣宛（電報）

### 在満州國ソ連領事館等に対する措置について

新 京 8月10日後7時50分発

本 省 8月10日後8時00分着

K第三八號

往電K第三六號ニ關シ

外交部ヨリノ報告左ノ通（冒頭往電ハ警務總局ノ報告ナリ）

一、九日前八時三十分在哈爾賓大石特派員代行ハ憲兵及警

官（拳銃ノミ携行、冒頭往電ニ輕機携行トセルハ誤ノ由）

其ノ他帶同蘇聯領事館ニ至リ「蘇聯ハ對日宣戰ヲ爲シ中

立條約ニ違反シテ滿洲國ヲ攻擊セルニ付必要ノ措置ヲ執

ルヘキ」旨述ヘタルニ「パウリチエフ」總領事ハ「對日

宣戰ノ旨ハ「ラジオ」ニテ承知セルモ對滿宣戰ナキニ斯

ル措置ハ不當ナル」旨答ヘタルカ之ニ拘ラス文書、公用

物件、「ラジオ」、銃器等ヲ提出スヘキ旨申渡シタル後

「バ」及副領事一名ヲ同道セシメ館内ヲ巡視セルカ重要

書類ハ燒却濟ニテ發信機ハ見當ラス公金（國幣約十一萬

圓、米弗八千弗餘、磅<sup>(マサ)</sup>二磅餘）ハ封印シテ持歸リ押收品

### 三 対ソ交渉とソ連の参戦

田調書一通作成署名ノ上[彼我]一通宛所持スルコトトヤリ  
(更ニ再度館内検分セルモ銃器、發電機ヲ認メス)午後一  
時退去セリ尙「ペ」ハ外交部トノ電話連絡ヲ希望セルニ  
付之ヲ許シ病氣入院中ノ館員妻(一名)ニ對シ警察官立會  
ノ上見舞ニ赴クヲ許シ食料ハ八月分ハ從來通トセリ  
二、大連ヨリ九日哈爾賓到着ノ豫定ニテ出發セル蘇側「クー  
リヒ」ハ奉天ニテ拘留セラレ公用鞆ハ押收セラレタリ  
三、一般蘇聯人ハ午前八時四十五分ヨリ(脱?)總數一、七〇  
〇名餘ニ上リタルカ拘留箇所ハ冒頭往電ニ警察留置所ト  
アルハ誤ニテ警察街某家屋ノ由ナリ(九日午後六時)

Beginning 9th are allowed to despatch two or three telegrams a day.

All staff members and correspondents quartered either at my residence or in <sup>(chancellery's)</sup> chanceller for moment, but former home<sup>(Hotel's)</sup> residents may return to hotel. All members allowed free movement without any restriction.

Purchasing of food stuff also permitted as before. A few Russian employees come back again. All members safe and sound. Kindly convey message to families.

~~~~~

1069 昭和20年8月10日 在スウヨーデン岡本公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

在ソ連日本大使館員等に対する待遇振りに關

あら報知

1070 昭和20年8月11日 在輕井沢大久保(利隆)公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

スウヨーデンによるソ連側利益代表の取扱い

つまソ連大使へ通報

付記一 昭和二十年八月十日通告

在本邦ソ連大使館等への待遇に関する通告要旨

一) 昭和二十年八月十四日付、政務局第三課作成

在本邦ソ連大使館等に対する措置振りに關し

スウヨーデン代理公使への説明要領

Please repeat the following Message to Foreign Minister Tokio.

第五一八號

〔昭和二十年八月十四日付、政務局第三課作成〕

(付記一)

在本邦蘇聯邦大使館ニ對スル八月十日通告要項

スウェーデン代理公使より在本邦ソ連大使館等への措置振りに関する照会申入れについて

軽井沢 8月11日後2時00分発

本省 8月11日後8時00分着

無號(至急)

武内政務三課長へ

左記「メツセージ」瑞典代理公使ヨリ蘇聯大使ニ傳達方依  
賴アリタルニ付然ルヘク取計ラハレタン

〔Ambassador of Soviet Union Tokio. Soviet Government  
requested Swedish Government assume Safeguarding of Soviet  
interests in Japan and Territories occupied by Japan. Swedish  
Government has accepted this charge and by Note Saturday I  
have notified Japanese Government. I have also asked Japanese  
Government to permit representative of Swedish Legation to call  
at Your Embassy Tokyo Monday.

Sydw.

Swedish Chargeé d'Affaires.〕

六、外務省ヨリハ日常生活ニ關スル便宜供與ノ爲在京大使館  
及在箱根強羅「ホテル」ニ連絡員ヲ派遣スヘシ  
七、本通告ハ在箱根蘇聯大使館員ニ對シテハ同地外務省事務

三、外出ハ差控ヘラレタン

但配給品ノ受領、醫療等必要已ムヲ得スト認メタル場合  
ニ限り之ヲ許可スヘキニ付後述外務省連絡員若クハ警備  
ノ爲派遣セラレタル警察官ニ申出ツヘシ(右許可ハ關係  
官廳會議ノ上許可スルコト)

右許可ヲ與ヘタル際ハ護衛ノ爲警察官ヲ同行セシムヘシ  
箱根ニ於テハ時間、場所ヲ指定シ散步ヲ護衛附ノ下ニ許  
可スベシ

四、郵便其他ノ通信ノ發受及電信ノ發受ハ外務省ノ許可無キ  
限り之ヲ禁止ス  
五、電話ノ使用ハ外務省トノ連絡ニ限ルヘク右以外ニ使用セ  
ル場合ハ切斷スルコトアルヘシ

六、外務省ヨリハ日常生活ニ關スル便宜供與ノ爲在京大使館  
及在箱根強羅「ホテル」ニ連絡員ヲ派遣スヘシ

所ヨリ之ヲ通報スヘシ

二時間、午後三時間)一定ノ場所ニ於テ散步ヲ許可シ  
ヲレリ

(付記二)

八、一四、政三

(欄外記入)  
「ソ」聯邦ノ宣戰布告ニ伴フ「ソ」聯大使館竝ニ同館員ニ對スル我方措置振りニ關シ武内課長ヨリ瑞典代理公使ニ對スル説明要領

一、「ソ」聯邦ノ對日宣戰ト關聯シ我方ニ於テハ在本邦「ソ」聯大使館ノ職務執行ハ八月十日以降之ヲ認メサルコトトシ其旨同日在京「ソ」聯大使館ニ通告セリ

二、「ソ」聯大使館竝ニ同館員ニ對スル我方ノ措置大要左ノ如シ

(イ)大使館員ハ目下現在ノ住所ニ居住シヲルモ我方ニ於テハ充分ナル保護ヲ加ヘアリ尙強羅「ホテル」ニ疎開中ノ館員家族ノ狀況ニ關シテハ我方連絡員ヲ通シ在京大使館側ニ隨時連絡セシメヨレリ

(ロ)外出ハ原則トシテ禁止シヲレリ但我方ニ於テ配給品ノ受領、醫療等必要已ムヲ得スト認メタル場合ハ此限ニ非ス尙在箱根大使館員家族ニ對シテハ毎日二回(午前

(ハ)大使館員ノ旅行モ同様禁止セラレヲル處十日夜「ソ」聯大使館側ヨリ「ヴォルギン」二等書記官等四名ノ強羅行申出アリタルニ對シ我方ハ事情ヲ考慮ノ上之ヲ許可シ翌十一日出發セシメタリ

(二)食料配給ハ從來通りトシヲレリ

(イ)水道ハ技術的理由ニ依リ一時斷水セルモ我方ニ於テ應急處置ヲ講スルト共ニ至急之カ復舊方努力中ナリシカ本十四日ヨリ大体ニ於テ復舊セリ

(ウ)電話ノ使用ハ外務省トノ連絡ニ限りヲレリ

尙我方ニ於テハ儀典課員各一名ヲシテ在京「ソ」聯大使館及在箱根疎開先トノ連絡ニ當ラシメ「ソ」聯大使館側ノ希望ヲ出來得ル限り満足セシメヨレリ  
(ト)郵便其他通信ノ發受及電信ノ發受ハ外務省ノ特別許可アル場合ヲ除キ之ヲ禁止セリ

尙十日夜先方依頼ノ電報二通ハ壽府經由及「モスコ」直通ノ二途ニ依リ發信方取計置ケリ

三、無線通信ノ發受ニ關シ我方ニ於テ在京「ソ」聯大使館内

ニ短波無線機械アルコトニ付確證ヲ有シヲレルヲ以テ十

二日係官(外務省員)ヲ派シ右機械ノ提出ヲ要求セシメタルニ對シ「ソ」聯大使館側ハ受信機二十四個ヲ引渡セルノミニテ(内三個ハ大使館側ノ要望ヲ容レ防空情報聽取用トシテ特ニ殘置方取計ヘリ)短波發信機械ニ關シテハ

斯カル機械ノ所有ヲ否定シ引渡ヲ拒絕セル由ナリ然ルニ我方ノ其後探知セルトコロニ依レハ「ソ」聯大使館ハ引續キ短波通信ヲ行ヒヲルコト確實ニシテ我方トシテハ飽迄不愉快ナル事態ノ發生ヲ避ケタキ意図ナルモ「ソ」聯大使館トシテハ一旦短波發信機ノ存在ヲ否定セル以上今更貴官ニ對シ右引渡方斡旋ヲ依頼スルモ效無カルヘク場合ニ依リテハ館内搜索ノ手段ニ出ツルノ止ムナキニ至ルヤモ知レス右御参考迄御話スル次第ナリ

以上

(欄外記入)

十四日午後二時代理公使「エリクセン」書記官帶同來訪

(付記三)

八、一四 政三

八月十四日午后五時瑞典代理公使(書記官同伴)武内課長ヲ來訪シ「マリク」大使ト會見ノ結果トシテ左ノ如ク申述ヘタリ

一、大連、京城及哈爾賓ニ於ケル「ソ」聯領事館員竝ニ「ソ」聯人ノ取扱振如何ニナリヲルヤ(武内、大東亞省トモ連絡ノ上御返事致スヘシ)

二、「ソ」聯傳書使「ポストニコフ」及「ブイチコフ」ノ消息承知シ度シ(武内、且下ノトコロ情報無キモ事情判明次第御知ラセスヘシ)

三、「ネリマ」號積載「ソ」聯大使館用食料品ハ如何ニナリタリヤ、到着次第大使館側ニ引渡アリタシ(武内、右ハ既ニ東京ニ到着シ敵國財產ノ故ヲ以テ差押ヘラレヲルモ特ニ好意的ニ關係官廳ト協議ノ上早ケレハ明日中ニモ引渡スヘク試ムヘシ)

四、新聞配達ノ件如何ニナリヲルヤ(武内、約束ハ致シ兼ヌルモ多分明日ヨリ配達セラルルコトトナルヘシ)  
又、水道ノ出ハ極メテ不良ナルカ時間給水ニテ差支ナキヲ以テ至急配水方斡旋アリタシ(武内、時間ヲ定メテ給水ス

ルヨウ努力スヘシ)

六、瑞典公使館ト「ソ」聯大使館トノ間ニ電話連絡許可方御願シタシ(之ニ對シ武内ヨリ外務省「ソ」聯大使館間ニ直通電話ヲ設備スヘク同大使館トノ普通電話切斷セラルコトナリヲニ付必要ノ場合ニハ外務省電話ヲ利用セラレタシト述ヘ瑞典側之ヲ諒承セリ)

七、瑞典公使館「ガベル」官補且下滯京中ナルカ十六日午后三時「マリク」大使ト會見セシメタキニ付御手配煩ハシタン(武内、手配スヘシ)

八、在横濱瑞典副領事「ウェスター」(目下強羅ニ事務所ヲ有ス)ニ訓令シ在強羅「ホテル」大使館員家族ヲ訪問セシメタル上上京瑞典公使館ニ報告セシメタシ右宜敷御願ス(武内、「アレンヂ」シ得ヘシト思ヒヲルモ何レ一兩日中「ガベル」官補ニ返事スヘシ)

九、貴方ニ於テ「マリク」大使以下ヲ強羅ニ移スヘク取計ハレサリシハ如何ナル理由ニ依ルヤ(武内、此點ニ關シ「ソ」聯大使館ノ意向ヲ尋セルニ全員移轉等ノ希望ナカリシヲ以テ其儘トナリヲルモノニシテ我方トシテハ別ニ之ヲ強制スル積ナシ)

六、短波通信ニ關スル貴官ノ自分ニ對スル言ヲ自分ノ「イニシアチヴ」ニ於テ「マリク」大使ニ傳ヘタル處同大使ハ

大使館絕對斯カル機械ヲ所有シヲラサルヲ以テ何時ナリトモ館内搜索ヲ行ハレテ(但瑞典公使館代表立會ノ下ニ)差支無シト語リ冗談交リニテ若シモ館内搜索ノ結果右機械發見セラレサリシ時ハ大使用トシテ短波受信器一ヶヲ返還シテ貰ヒタシト述ヘヨリタルガ自分(瑞典代理公使)トシテモ一個位ハ許サレテハ如何ト存ス

以上

1071

昭和20年8月16日

在ハルビン宮川總領事より  
東郷大東亞大臣宛(電報)

ソ連參戰後のハルビンの情勢について

ハルビン 8月16日発

本 省 8月19日着

第七二號

往電合第四〇號ニ關シ

一、九日以後「ソ」聯機ノ來襲ハ一、二回アリタルノミナリシヲ以テ其儘トナリヲルモノニシテ我方トシテハ別ニシモ「ソ」軍ノ進撃急ナル爲奥地ヨリ引揚ノ婦女子ノ満

載列車陸續南下シ或ハ下車スルモノ激増、爲ニ市民ハ極度ノ不安焦慮感ニ驅ラレ漸ク無秩序狀態ニ陥ラントスル

矢先十四日本官官邸所在地カ防禦陣地ナル關係上防衛司令部參謀ヨリ立退ヲ要望セラレ大石外交部特派員ヨリモ「ソ」聯總領事館員ヲ海城ニ避難セシムルコトシタル旨連絡アルト共ニ中華民國總領事館及當館ノ順序ニテ引揚ヲ要請シ來レリ「ソ」聯總領事館ハ十四日夜半ヨリ十五日ニ懸ケ當地ヲ出發セリ右ハ本官ノ初志ニ反スルノ

ミナラス省次長モ日本居留民ノ動搖防止ノ爲本官ノ殘留

ヲ切望シ居ル次第モアリ本件防衛司令官ニ連絡シタル處同司令官モ同様ノ希望ナルコト判明シタルニ付當初ノ方針通り踏ミ止マルコトセリ斯カル間ニ十五日大詔ヲ拜

シ帝國臣民ハ聖慮ノ廣大無邊ニ感泣セリ

二、我軍ノ武裝解除ニ關聯シ「ソ」軍入市ノ際日「ソ」兩國間ノ不測ノ事故發生セサル無キヲ保シ難ク之カ防止ノ爲「ソ」軍ト連絡ヲ取ルコト必要ナルニ付當地關係機關ト協議ノ結果「パ」總領事ヲ之ニ利用スル爲同人ヲ當地ニ引返シムルコトセリ同人ハ十六日到着ノ筈ナルニ付其ノ上大石ト會同「ソ」軍入市ノ際ニ於ケル不祥事件ノ防

止竝ニ邦人殊ニ老幼婦女子ノ保護ニ付特別ノ配慮ヲ要請スル考ナリ

三、國軍中ニ武裝ノ儘脱走スルモノ又ハ發砲スルモノ生シ十五日夕刻頃本市内邦人再ヒ極度ノ不安ニ驅ラレ十六日ニ至リ邦人中當館ニ保護ヲ求ムルモノ生スルニ至レリ

四、「ソ」軍入市ノ場合ノ外之ニ先立チ哈市ノ實權ヲ自己ノ掌中ニ收メ置カントスル共匪ノ暗躍モ窺ハレ今後ノ形勢警戒ヲ要スルモノアリ

吾當館館員ハ萬一ノ場合ヲ考慮シ家族ト共ニ官邸附近ニ集結シタルカ古屋領事一行モ合流一同元氣ナリ  
外務大臣ヘ轉報アリ度

1072 昭和20年8月17日 在ハルビン宮川總領事より  
重光大東亞大臣宛(電報)

停戰命令後における一部部隊の戰鬪行為継続等の状況につき報告

ハルビン 8月17日発  
本省 8月21日着

### 三 対ソ交渉とソ連の参戦

一、八月十六日關東軍司令官ヨリ新京「ラジオ」ヲ通シ極東軍司令官「ワシレフスキイ」元帥ニ直接戰鬪停止ノ申入レヲ爲シタル趣ナリシカ十七日正午哈府「ラジオ」ハ同元帥ヨリ哈府時間十七日午前六時同シク「ラジオ」ヲ以テ關東軍司令官宛關東軍申入ニハ降伏ニ關シ一言モ觸ル所ナキノミナラス現地部隊ニ於テ反擊ニ出ツルモノスラアリ極東軍司令官ハ關東軍ニ對シ。<sup>？</sup>（哈府時間）迄ニ全軍武器ヲ捨テ捕虜トナルヘキニ於テハ「ソ」軍モ直ニ戰鬪行爲ヲ中止スヘントノ趣旨ヲ回答セル旨放送セリ。二、十七日午前秦關東軍參謀長新京ヨリ當地ニ飛來シ午後一時ヨリ二時迄本官ト共ニ「パウルイチエフ」總領事ヲ訪問左記ノ如ク關東軍トシテノ誠意ヲ披瀝シ之カ「ソ」軍ヘノ傳達方竝ニ關東軍司令部ト極東軍司令部ト直接交渉ノ爲畠參謀長「ワシレフスキイ」元帥ノ司令部訪問ノ件幹旋方ヲ依頼シタリ右ニ對シ「パ」ハ前記「ノ」「ワ」元帥ノ回答ヲ一應「リマインド」シタル上〔「パ」ニハ「ラジオ」聽取ヲ許シ居レリ〕之ヲ然ルヘキ筋ニ傳達スヘキヲ約セリ<sup>(イ)</sup>關東軍トシテハ聖旨ヲ奉戴シ正々堂々武器ヲ捨ツル覺悟ノ下ニ十五日正午停戰命令ヲ發シ更ニ十六日

夕具体的命令ヲ發セリ（兩命令ノ意ヲ先方ニ强行シ居レリ）<sup>(イ)</sup>然レ共前線地區ニ於テ混線狀態ニアル結果停戰命令ヲ接受シ得サル部隊アリ殊ニ間島方面ノ第三軍及牡丹江方面ノ第五軍ニ「ソ」軍トノ間ニ相當激烈ナル戰鬪行ハレ之ニ對シテハ傳單ヲ散布スル等出來ル丈停戰命令ノ到着徹底ニ努力シツツアリ關東軍トシテハ無用ノ出血ヲ避ケル爲斯カル混戰狀態ニアル部隊カ完全ニ武器ヲ捨テ之ヲ「ソ」側ニ渡シ得ル様「ソ」側ニ於テモ戰鬪ノ停止セラルコトヲ切望スル次第ナリ）關東軍トシテハ「ソ」軍ニ引渡スヘキモノハ完全ナル狀態ニ於テ正々堂々亂れサル統制ノ下ニ之ヲ「ソ」側ニ引渡サント欲スルモノナリ茲ニ慎重考慮ヲ要スルハ「ソ」軍到着前餘リニ早ク武裝ヲ解除センカ重慶側工作員其ノ他暴徒ノ乗スル所トナリ折角集積シタル武器等モ彼等ニ破壞奪取セラルル危険アリ日本ハ十三年間血ミドロトナリ建設セル施設ヲ暴徒ノ破壞奪取ニ委スルカ如キハ忍ヒ得サル所ニシテ完全ナル形ニ於テ之ヲ「ソ」側ニ引渡シ度キモノナリ又前線ヨリ離レタル後方都市（例ヘハ哈爾賓、新京ノ如シ）ニ在リテハ日本軍武器ヲ捨ツル時ハ治安直ニ紊亂シ居留民等ノ

保護困難トナルヘキヲ以テ「ソ」軍到來直前迄日本軍ノ武器ヲ其ノ儘トシ「ソ」軍到來ノ間ニ間隙ヲ置カス地區ノ接受兵器其ノ他ノ引渡ヲナスコトヲ切望スルモノナリ

1073

昭和20年8月20日

(在ハルビン宮川總領事より  
重光外務大臣宛(電報))

#### 日ソ停戦後の具体的措置について

ハルビン 8月20日前0時00分発  
本省 8月20日前10時55分着

第三號

往電第二號ノ二ニ關シ

十八日朝「パウルイチエフ」總領事ヨリ本官ニ對シ「ワシリフスキイ」元帥ノ秦參謀長宛「ラヂオ」通報トシテ(ハ爾賓及其ノ周邊地區ニ於ケル日滿軍ノ降伏形式化ノ爲第一極東軍代表ハ蘇聯機數機ニ便乗シ十八日午前十一時過哈爾賓飛行場ニ下降スヘキコト(商議ノ爲秦參謀長ヲ蘇聯機ニテ「ワ」元帥ノ下ニ案内スヘキコト及(其ノ他滿洲都市ノ權力ハ蘇軍ニノミ移管スヘキコト等ヲ秦參謀長ニ傳達方依賴セリ依テ右ノ次第新京ニ歸レル秦參謀長ヘ傳ヘタル所同

編注 昭和二十一年八月十九日、ソ連軍との間に停戦協定が成立。

參謀長ハ間モ無ク飛行機ニテ來哈シ本官上村當市司令官等ト共ニ極東軍代表一行出迎ノ爲飛行場へ赴キタルカ一行(「シラゼノフ」少將以下兵共約二八〇名)ハ漸ク午後六時四十五分ニ至リ戰鬪機二機及「ダグラス」機六機ニ便乘來哈セリ本官ハ秦參謀長瀬島中佐野原中佐及大前副官等ト共ニ蘇聯機ニテ直ニ「ジャリコフ」飛行場(「オロギーロフ」附近)へ赴ク筈ナリシカ天候惡シキ爲十九日未明出發スルコトトナレリ尙秋草機關長ハ蘇側ノ名指ニテ同行スル筈大東亞大臣ヘ轉電セリ